

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000025		
法人名	医療法人中山会 グループホーム冬桜		
事業所名	グループホーム冬桜 1F		
所在地	北海道江別市大麻東31番地5		
自己評価作成日	令和3年10月29日	評価結果市町村受理日	令和3年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000025-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた住宅地に立地しております。近隣には銀座商店街があり各種医院、飲食店、小学校が隣接している地域になります。今年度は、コロナ蔓延防止の為に行事をほとんど行う事ができませんでした。ですが、こじんまりとですが、庭でお肉を焼いて各階で楽しんだり、入居者個々に外出を行い季節の変わり目を感じたりして頂きました。小学校との交流に関しては、コロナウイルスの状況を見ながら再開を予定しております。他、窓から見える風景として中庭の花壇を手入れし季節の草花を楽しんで頂けるようにチューリップやスイセン・クロッカス等の球根を9月に植えました。クリスマスや年末年始にも皆さんに楽しんでもらえようように趣向を凝らし、年度替わりにも正月飾りやお正月の食事を提供させていただきます。ご家族の面会に関しては、入居者さんはコロナワクチンを接種頂いたので、家族の方もワクチンを接種されていれば、窓越しでの面会をさせて頂いています。コロナウイルスの蔓延防止をしながら、入居者さんにはホームの壁に季節の飾りで桜や鯉のぼり(入居者さんが塗り絵した物)・ハロウィン・クリスマス等の装飾を一緒に行っています。普段の生活でも自身で行える方には、洗濯干しや洗濯たみ、テーブル拭きやお盆拭き等の出来る事を継続して頂けるように支援しています。コロナウイルスが落ち着き、外出が可能になれば買い物や外食等に出かけ、本人・家族・職員にて楽しく過ごして頂き、パウロ病院で開催される「歌合戦」「作品展」「夏祭り」「クリスマス会」にも参加し、笑顔の絶えないホームを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム冬桜」は、バス停から徒歩で数分の静かな住宅地に立地している2階建て2ユニットのグループホームである。近隣には小学校や商業施設、公園などもあり生活の利便性が高い事業所である。建物内は大きな窓に囲まれた明るく開放感のある造りで、壁には利用者の作品や季節の装飾がさり気なく施されており家庭的な温もりが感じられる。今年度新たに就任した管理者を中心に、全職員で利用者一人ひとりの思いや意向、家族の悩みや不安に寄り添いながら、各利用者ができることを可能な限り継続できるように温かなケアを行っている。感染症の流行により地域住民との交流は少なくなっているが、広報誌を回覧して事業所の様子を知らせたり、個別散歩で近隣住民と挨拶を交わしながら交流を継続している。感染症の収束状況を見ながら小学校の発表会見学なども再開を予定している。以前は家族と一緒に外出行事を開催していたが、今年度は外出が難しかったため、ユニットごとに手作り鳥居で初詣やおみくじ、ゲーム大会や庭でのバーベキューなど工夫しながら利用者が外出できなくても楽しめるようなレクリエーションを毎月開催している。管理者は、各職員の意見や提案を聞き取りながら働きやすい職場環境の整備を目指して熱心に運営に取り組んでおり、今後も更なる発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営母体と理念を共有し「大切な命を元気で楽しい命に」掲げている。また、行動方針には5項目を掲げており、月2回のカンファレンスで全員で読み上げて共有し、基本方針に沿った支援や実践に向けて取り組んでいる。	法人共通の運営理念と基本方針を事業所理念として掲げ、携帯カードを職員に渡している。特に草花や音楽を楽しむという項目を意識し、行事などで地域住民と交流を深めている。事業所内の要所に理念を掲示し、更に意識したいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、例年であれば桜の下コンサート、夏祭り等の案内を回覧している(コロナウイルス蔓延防止の為R3年度は中止している)、商店街には買い物や個別に散歩し交流している。	感染症流行により地域との交流は少なくなっているが、広報誌を回覧して事業所の様子を伝えたり、近隣を散歩しながら挨拶を交わしている。感染症流行前は、体操や楽器演奏、歌や手品などのボランティアが訪れていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段は、地域の方々が来訪しやすい施設を目指している。R3年度は、大麻東小学校等との交流の再開を予定している。ありのままのホームを見て頂く事で認知症の方々を受け入れて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も通常であれば、2か月に1度の割合で行っていたが、コロナウイルス蔓延防止の為、一時休止、書面にて入居者家族や民生員、包括にて周知しています。	2か月ごとに書面会議を開催し、時系列で事業所の様子を伝えている。現在はミニ勉強会を開催できないので、議事録と一緒に家族や地域住民に役立つ情報資料なども送付したいと考えている。会議再開時には、テーマに沿った勉強会も実施する予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	江別市と常に連絡を行っている。令和3年4月より管理者も変更となり、不明な点等は電話連絡を行い、色々な事を相談して意見を求めている。	管理者は、書類の記載方法を電話で確認してアドバイスをを受けたり、入居者の対応などで分からないことがあれば相談している。保護課の職員と利用者について情報交換したり、書類の提出で市役所を訪問している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム及び法人マニュアルを遵守している。身体的拘束適正化委員会を開催し、年間で4回以上は必ず開催している。又、読み合わせのマニュアルを作成し、2から3項目を毎日職員間で読み合わせし、意識を向上している。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、定期的に勉強会を実施している。身体拘束適正化委員会で利用者全員の現状を報告し、拘束につながる行為が無いか確認している。委員会の議事録と勉強会の資料を更に分かりやすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止については、法人の介護福祉課にて毎月1名ずつ参加し研修を行っている。又、動画視聴にて研修を行い職員の意識を高めている。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、成年後見制度を利用している方は居ない、今年入居された方の血縁者が高齢なので江別市の成年後見制度を利用する話が出ているので、都度状況に合わせて対応していく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間を取り重要事項の説明を行っている。又、事業所としてできる事、できない事を明確に説明している。医療連帯体制等を説明し、重度化された時の対応についても同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に暮らしのシートを見て頂き、意見等を個人ノートに記載、情報の共有を図り改善に努めている。重要事項説明書に法人の窓口も設け(個人名)意見を述べやすい環境に努めている。暮らしのシートのコピーを送付しこれからの事等の意見を頂きやすい工夫し話し合いをしている。	電話や来訪時に家族の意見や要望を聞き取り、個別ノートに記入している。年3回「冬桜だより」を作成し、家族に事業所での様子を写真などで伝えている。今後は個別の写真にコメントを添えて送るなど、家族に利用者の様子を伝える方法を更に検討したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、個人面談の場を設け個々の目標を掲げて頂いたり、困っている事等を確認し、意見や提案を述べやすい環境を提供、現場での働く環境の改善等に活かしている。	管理者は、日々職員の意見や提案を聞き取り、業務改善や利用者への対応に反映させている。個人面談を実施し、働きやすい職場環境を整備している。職員は園芸や物品発注、装飾などの係を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムによる昇給体制があり、自己評価、面談等により、個々の意向の確認を行っている。またカンファレンス時の話し合いにより働きやすい環境づくりに努めている。希望休や有給休暇を組み入れている。働き方改革により有給休暇が取得しやすくなった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、法人の研修を通し、職員一人ひとりのケアと環境を整えている。コロナ蔓延防止の為に研修への参加は難しいが、ZOOMや動画を活用し研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、コロナ蔓延防止の為に他事業者との接触は控えている。法人の介護福祉課にて研修を行い、交流の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族等から本人の情報を頂けるように書面や電話等で出来るだけ情報を頂き、本人が利用開始しても安心できるように対応し、入居後はできるかぎり本人とお話をして困っている事や不安を受け止めるように対応している。事前に面談等をしていたが、コロナウイルス蔓延防止の為に面談の回数は極力控えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から連絡や来訪があった場合には、できる限り時間を取りお話を聞くようにし、話を聞く環境を作り、話しやすいじょう環境の提供に勤める事で信頼頂けるように努めている。コロナウイルス蔓延防止の為、電話でのやり取りを主としています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の相談内容、ご本人の状態を確認し、色々な環境を踏まえた上で適切な介護サービス等が受けられるように支援している。時には、他サービスを進める事もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、テーブル拭き等できる範囲で声かけで行ってくれたり、一緒に行ったりしている。又、普段の会話から生活の知恵等の話を頂き、対等の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ蔓延防止の為に家族と共に行う行事は、令和3年度は中止しています。ただし、ケアプランや担当者会議を通じて本人の状況を伝えたり、家族の面談はワクチンを接種している方に関して窓越しで行っています。又、LINEを利用したTV電話も使っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ蔓延防止の為に知人との面談は控えています。希望があれば、電話でお話をして頂いたり、時にはLINE電話を使つての面会も許可しています。	感染症の流行により訪問する方は少ないが、友人や親族と電話で話をする利用者もいる。散歩や受診時に以前住んでいた場所を通ったり、自分の家を見てくることもある。家族とガラス越しの面会なども行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	申し送りや記録、カンファレンス等から入居者同士の関係を把握し、孤独感を感じないように職員で声かけや他入居者さんとの交流を支えています。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的はこちらから連絡する事は無いが、連絡があった時には丁寧に対応し、パウロ病院の入院している方に関しては、時折面会をしている(現在は、コロナウイルス蔓延防止の為、面会禁止中)。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、その人の思いや願を把握し、家族も踏まえて普段の暮らしに反映している。意思表示が難しい方は、表情等からカンファレンス等で支援の方向を検討し、いくつかの選択肢から家族にお話をして方向性を決めている。	会話や表現、仕草などから思いや意向を汲み取り職員間で情報を共有している。利用開始時にセンター方式シートを作成しているが、追記や更新は行われていない。利用者の思いや趣味、嗜好などの情報をわかりやすく記録しているとはいえない。	センター方式B-3シートに興味や嗜好を具体的に記録し、変化に応じて追記や更新を行いケアや介護計画に更に活かすよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族に記載して頂いています。他、本人や家族に直接習慣等を伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況や状態については、個人記録を主として1日2回の申し送りで周知し、排便・入浴・体重・バイタルに関しては確認しやすいように別にチェックシートに記載して、共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人記録に記号を記載しケアプランと連動している。毎回のカンファレンスで日々のモニタリングを行い、三ヶ月に一度の割合で書面に起こしている。家族とは、来訪時に状況報告と意見を頂き、年に一度の割合で担当者会議を開催し、本人・家族から意見や要望を求めている。	計画作成担当者を中心に全職員で短期目標に沿って評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。家族や本人の意向に沿って支援しているが、分かりやすく介護計画に反映できていないため記入方法を検討したいと考えている。日々の記録に介護計画の記号を入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態や状況及び、言動も本人の言葉を使い記録し、介護者の言動に関しても記録、一日二回の申し送りで情報を共有、カンファレンス時にはモニタリングを行い、記録にする事で職員間での情報を共有、ケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主に、突発的な発熱時等家族に連絡を行い対応して頂くが、状況及び状態によってホームの人員で対応、家族が遠方の方や車椅子で移動が必要としている方には、外部サービスを利用した受診も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ蔓延防止の為に令和3年度に関しては、地域との接触を控えている。ただし、買い物や理美容の関しては地域の資源を活用している。大麻東小学校とは交流を再開する予定です。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に入居者と家族に意向を確認し対応している。家族での受診時には状況の説明書等も使用している。受診後は、結果を受診記録に記載し情報の共有を図っている。	希望に応じてかかりつけ医の受診継続も可能であるが、殆ど協力医療機関の往診を受けている。家族と専門医を受診する時は紹介状を渡している。受診記録は「病院受診」ファイルに個別に記入している。	

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護にて来訪時に皮膚の状態やむくみ等の相談をしている。状態変化に関しては、電話で連絡を行い指示を仰いでいる。パウロ病院の訪問診療時に訪問看護師が同行し、馴染みやすく安心できる体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの生活状況の報告を医療機関に合わせて書面や口頭で行っている。入院中には、定期的に訪問又は電話にて連絡し、退院に向けては情報を頂き、話し合いを行いながらホームの体制を整えて退院して頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明時や施設見学時に重度化の説明を行っている。終末期は行っていないので、要介護4又は要介護5になってからは折を見て家族に状況を説明し、ホームの次の事を考えて頂き、本人と家族が納得できるように支援を行っている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、介護度が高くなり食事が摂れなくなった場合は事業所での対応が難しいことを伝えている。体調変化に応じて方針を相談し、その方に合った施設情報の提供も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変、事故発生時には連絡網を活用し、対応している。緊急連絡網を定期的にテストしている。玄関の見やすい所にAEDを設置しいつでも使いやすく、機能点検も確認しやすくしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っているが、コロナ蔓延防止の為消防署の方は参加していないです。丸興商事と共に訓練を行い、ベルを鳴らし緊急通報も行っている。他、江別市のシェイクアウト訓練にも参加している。	感染症流行前は消防署の協力の下、避難訓練を実施していた。今年は夜間の火災を想定した自主訓練を行っている。地震時の危険箇所は確認しているが、ケア別対応については話し合っていない。職員の救命講習は計画的に進める意向である。	地震時のケア別対応について職員間で話し合い、記録をマニュアルなどに綴り定期的に確認するよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で情報共有を行う場合は、部屋番後を活用し(部屋には部屋番号の表示はない)入居者及び外部の方にも配慮をしている。個々の人格を把握し、個別に応じた声かけ対応を行っている。	入職時の事業所内研修では対人援助の基本などを教え、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけなどを実務の中で理解を深めている。利用者の情報や連絡など取り扱いを管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の衣類、おやつ、塗り絵等のアクティビティでも選択できるようにし、できる方には自身で選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間は、本人のペースと体調に合わせて行っている。食事やおやつは薬の関係もあるので、同じ時間帯で提供している。トイレも個々のタイミングで声かけしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方には衣服を自ら選んで頂き、季節や気温の話しをし時期にあった服を選んで頂いている。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現時点では、調理を一緒に行うのは困難だが、食事前後のテーブル拭きやお盆拭きを声かけで行っている。ミキサー食も彩りよく盛り付け見た目も楽しめるように工夫している。	好みや季節を考慮して職員が献立を作成し調理している。利用者は職員の声かけでテーブルやお盆を拭き力を発揮している。恒例の外出レクは中止したが、事業所内でバーベキューを楽しみ好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一品でも多く摂ってくれるように、独自にメニューを作り、三食で食材の種類が多く摂れるように工夫している。水分の取りづらい方には、ストローを使ったリカップを変更して自力での摂取を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけを行い一人ひとりに合わせて仕上げ磨きや入歯の手入れ、歯茎のスポンジ清掃を行っています。訪問歯科と密に確認を行いながら歯磨き等の支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者全員の排泄タイミングを把握し、声かけ支援を行っている。残存機能を生かすために車椅子の方でも手すりに捕まって頂いたり、歩行時に介助が必要な方でもなるべく歩いて移動して頂いています。ズボンの上げ下げや上着を押さえてもらう等、出来る事は協力頂いています。	排便チェック表や暮らしの様子シートで習慣や体調を丁寧にチェックして排泄パターンを把握している。さりげないトイレ誘導や身体機能に応じた見守り介助をしており、排泄の失敗や不安を持たずに気持ち良くトイレに行けるように対応している。全員が日中のトイレ排泄を維持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は、チェック表で確認し排便感覚等に注意している。水分の確保を重視し、食材を多く使って食物繊維等にも気を付けている。医師にも便秘の報告し、個々に薬の調整もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別入浴で対応し、プライバシーにも留意している。会話したり、浴室・脱衣場の温度にも留意し、快適に過ごせるようにし、次の入浴に繋がるようにしている。入浴順等も確認しながら、快適に入浴して頂いている。	入浴日や時間帯を考慮して、週2回の入浴を支援している。羞恥心や負担感を理解し、無理強いすることなく、好みの湯加減や入浴剤を使い、楽しい会話で利用者が気分転換できるように工夫を重ねている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握し、日々の申し送りからその時々状況も共有している。入床時間も一人ひとりの状況や体調に応じて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在使用している飲み薬や塗り薬をファイルし、いつでも見られるように管理している。服薬介助前後の確認は、2人の目が関わるようにし、空袋も確認している。血圧や血糖の薬が変わった際には「今日の申し送りと予定」の書面に記載し、職員全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別にホームの周りを散歩し季節の変わり目を感じてもらったり、個別に行っている読書・スケルトン・編み物・歌・遠山の金さん等を状況に応じて提供している。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ蔓延防止の為に家族との外出は控えていますが、馴染みの理美容や定期的に通っている病院には個々に対応して頂いている。集団でワクチン接種を病院で行った帰り等にドライブをし気分転換の努めている。又、四季を感じて頂くために個別で近所の散歩もしている。	例年の外出行事では春には菖蒲園、同法人病院の夏祭りやのど自慢大会、クリスマスや初詣などを楽しんでいた。感染症の流行により、現在は近隣の散歩や個別支援で受診後にドライブを楽しみ気分転換を図っている。近隣の小学校との交流も11月末から再開を予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事の際に、個々の希望に応じて本人が自身で選び、清算時には同行し一緒に支払いをする等できる事をできる限りで支援してはいたが、今は自粛している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はコードレスを使用しているので、居室での会話も可能にしています。電話や手紙のやり取りも支援しやすいように工夫しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、四季やひな祭り、クリスマス等の飾りを毎月変更し、入居者自身が作った折り紙や塗り絵を展示しています。、照明は暖色及び間接照明を使用し音楽や照明の強弱で居心地の良い空間を提供し、いつでも庭に出られるように庭木や草花の手入れを行っています。	広い共用空間では季節感ある作品や装飾が綺麗に並べられ、リビングやテラスでは中庭の花木を眺め、日光浴や外気浴を楽しむ居心地よい場所となっている。大きな窓からは地域の生活や季節の変化を感じて会話が弾んでいる。感染症対策として、常に窓を開けて換気を行い環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間を2ヶ所設定し、テーブル・ソファ・TV・本箱等を設置し、ひとりでも仲の良い利用者同士でもいつでも自由に利用できる場にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はスペースに限りはあるが、馴染みの物を持ち込んだりしている(タンス等)。又、家族の写真や好みの置きものや飾りをしている。	使い慣れた筆筒や鏡台を持ち込み、壁には家族写真やカレンダーを飾り、居心地よい部屋作りを支援している。生活習慣を大事にして、衣類の整理や居室の掃除など利用者が継続してできるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできる事を把握し都度声かけで行って貰っている(洗濯たたみ、洗濯干し、食器の片付け、食器やお盆拭き等)。トイレに表示を出し解かりやすくし、廊下・トイレに手すりを設置、段差を無くしバリアフリーをしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000025		
法人名	医療法人中山会新札幌パウロ病院		
事業所名	グループホーム冬桜2F		
所在地	北海道大麻東町31番地の5		
自己評価作成日	令和3年11月3日	評価結果市町村受理日	令和3年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000025-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた住宅地に立地しております。近隣には銀座商店街があり各種医院、飲食店、小学校が隣接している地域になります。今年度は、コロナ蔓延防止の為に行事をほとんど行う事ができませんでした。ですが、こじんまりとですが、庭で肉を焼いて各階で楽しんだり、入居者個々に外出を行い季節の変わり目を感じたりして頂きました。小学校との交流に関しては、コロナウイルスの状況を見ながら再開を予定しております。他、窓から見える風景として中庭の花壇を手入れし季節の草花を楽しんで頂けるようにチューリップやスイセン・クロッカス等の球根を9月に植えました。クリスマスや年末年始にも皆さんに楽しんでもらえようように趣向を凝らし、年度替わりにも正月飾りやお正月の食事を提供させていただきます。ご家族の面会に関しては、入居者さんはコロナワクチンを接種頂いたので、家族の方もワクチンを接種されていれば、窓越しでの面会をさせて頂いています。コロナウイルスの蔓延防止をしながら、入居者さんにはホームの壁に季節の飾りで桜や鯉のぼり(入居者さんが塗り絵した物)・ハロウィン・クリスマス等の装飾を一緒に行っています。普段の生活でも自身で行える方には、洗濯干しや洗濯たみ、テーブル拭きやお盆拭き等の出来る事を継続して頂けるように支援しています。コロナウイルスが落ち着き、外出が可能になれば買い物や外食等に出かけ、本人・家族・職員にて楽しく過ごして頂き、パウロ病院で開催される「歌合戦」「作品展」「夏祭り」「クリスマス会」にも参加し、笑顔の絶えないホームを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営母体の理念として「大切な命を元気で楽しい命に」を掲げている。また、行動方針には5項目を掲げており、月2回のカンファレンスレシスの際に全員で読み上げて共有を図り、基本方針に沿った支援や実践に向け取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、例年であれば桜の下コンサート、夏祭り等の案内を回覧している(コロナウイルス蔓延防止の為R3年度は中止している)、商店街には買い物や個別に散歩し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段は、地域の方々が来訪しやすい施設を目指している。R3年度は、大麻東小学校等との交流の再開を予定している。ありのままのホームを見て頂く事で認知症の方々を受け入れて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も通常であれば、2か月に1度の割合で行っていたが、コロナウイルス蔓延防止の為、一時休止、書面にて入居者家族や民生員、包括にて周知しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	江別市と常に連絡を行っている。令和3年4月より管理者も変更となり、不明な点等は電話連絡を行い、色々な事を相談して意見を求めている。2Fには、生活保護の方がいるので受診連絡等を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム及び法人マニュアルを遵守している。身体的拘束適正化委員会を開催し、年間で4回以上は必ず開催している。又、読み合わせのマニュアルを作成し、2から3項目を毎日職員間で読み合わせし、意識を向上している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止については、法人の介護福祉課にて毎月1名ずつ参加し研修を行っている。又、動画視聴にて研修を行い職員の意識を高めている。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は、書面などを使い周知している。成年後見制度については、入居者で利用している方がおり、勉強の機会となっているが今年度は訪問なく郵送でのやり取りとなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間を取り重要事項の説明を行っている。また、事業所として出来る事できないことを明確に説明している。医療連携体制等を説明し重症化された時の対応についても同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の様子を伝えたり、意見や要望を聞き取り個人ノートに記載している。重要事項説明書に法人の窓口になる者の個人名を記載し意見を述べやすい環境に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、個人面談の場を設け個々の目標を掲げて頂いたり、困っている事等を確認し、意見や提案を述べやすい環境を提供、現場での働く環境の改善等に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムによる昇給体制があり、自己評価、面談等により、個々の意向の確認を行っている。またカンファレンス時の話し合いにより働きやすい環境づくりに努めている。希望休や有給休暇を組み入れている。働き方改革により有給休暇が取得しやすくなった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、法人の研修を通し、職員一人ひとりのケアと環境を整えている。コロナ蔓延防止の為に研修への参加は難しいが、ZOOMや動画を活用し研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、コロナ蔓延防止の為に他事業者との接触は控えている。法人の介護福祉課にて研修を行い、交流の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	随時、ホームの見学、ご家族との面談、ご本人を交えての面談を何度か行い、状況を把握できるように努めている。ご本人の思いを受け止め安心できるように真摯に対応して、関係づくりに努めている。またホーム内での様子等、ご家族に報告または記録を見て頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から連絡や来訪があった場合には、できる限り時間を取りお話を聞くようにし、話を聞く環境を作り、話しやすいよう環境の提供に勤める事で信頼頂けるように努めている。コロナウイルス蔓延防止の為、電話でのやり取りを主としています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の相談内容、ご本人の状態を確認し、色々な環境を踏まえた上で適切な介護サービス等が受けられるように支援している。時には、他サービスを進める事もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯たたみ、調理等出来る範囲で手伝って頂き、その中で会話をしたり、学んだり、支えてゆく関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ蔓延防止の為に家族と共に行う行事は、令和3年度は中止しています。ただし、ケアプランや担当者会議を通じて本人の状況を伝えたり、家族の面談はワクチンを接種している方に関して窓越しで行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ蔓延防止の為に知人との面談は控えています。希望があれば、電話でお話をさせて頂いたりしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	申し送りや記録などから、入居者同士の関係を把握し、孤立することが無いように、職員が状況を見ながら中に入り支援をするように努めている。入居者さん同士の談話等和やかに楽しまれている姿も見られる。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的にこちらから連絡する事は無いが、連絡があった時には丁寧に対応し、パウロ病院の入院している方に関しては、時折面会をしている(現在は、コロナウイルス蔓延防止の為、面会禁止中)。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのニーズにあった対応をし意思疎通がうまくできない方については、言語、表情、行動から把握しカンファレンス時に検討している。カンファレンスの話し合いで今後の対応について答えが出ない時は、都度本人や家族と話して次回に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、入居者情報シートを家族に記入して頂いているが家族がなく後見人なので詳しい情報が分からない方もおられる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況や状態については、個人記録を主として1日2回の申し送り周知し、排便・入浴・体重・バイタルに関しては確認しやすいように別にチェックシートに記載して、共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人記録に記号を記載し、ケアプランとつながりを意識している。毎月2回のモニタリングの実施、3ヶ月毎に短期目標の見直しをしている。長期目標の時期にはの時期にはアセスメントと担当者会議を開催し本人及び家族と話しあいを設けていた。現在は自粛している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動や心理変化を毎日申し送り、月2回のカンファレンスの際にモニタリングを行って情報を共有し、見直し、反映、実践へとつなげ、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主に、突発的な発熱時等家族に連絡を行い対応して頂くが、状況及び状態によってホームの人員で対応、家族が遠方の方や車椅子で移動が必要としている方には、外部サービスを利用した受診も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ蔓延防止の為に令和3年度に関しては、地域との接触を控えている。ただし、買い物や理美容のに関しては地域の資源を活用している。大麻東小学校とは交流を再開する予定です。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に、ご家族の意向を確認してかかりつけ医を継続できるように支援している。ご家族がご本人と受診する際は、ご本人の状況を書面で渡し適切な医療を受けられるように配慮している。受診後は個別に結果を記載し情報の共有を行っている。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいた事、相談したいことを週1回の訪問看護師に見て頂き適切な指示を頂いている。状況に応じ夜間もアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの生活状況の報告を医療機関に合わせて書面や口頭で行っている。入院中には、定期的に訪問又は電話にて連絡し、退院に向けては情報を頂き、話し合いを行いながらホームの体制を整えて退院して頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明時や施設見学時に重度化の説明を行っている。終末期は行っていませんので、要介護4又は要介護5になってからは折を見て家族に状況を説明し、ホームの次の事を考えて頂き、本人と家族が納得できるように支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変、事故発生時には連絡網を活用し、対応している。緊急連絡網を定期的にテストしている。玄関の見やすい所にAEDを設置しいつでも使いやすく、機能点検も確認しやすくしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っているが、コロナ蔓延防止の為消防署の方は参加していません。丸興商事と共に訓練を行い、ベルを鳴らし緊急通報も行っている。他、江別市のシェイクアウト訓練にも参加している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で入居者の話をする場合には、居室の番号を利用するなど入居者及びホーム外の方に分からない様に配慮を行い、個々の人格を把握し個別に応じた対応でその方を尊重した声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの表情、仕草、言葉から思いを読み取り、安心して話せる雰囲気を作り、個々に応じて選択肢を増減してご自分で決められるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さん一人ひとりのペースや体調を考慮し、出来ることをできる範囲で取り組んでもらっている。ケアプランにも反映して統一したケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切にし、髪型、おしゃれに合わせ、朝の更衣時や入浴時の着替えなどは出来る限り本人に選んで頂き、可能な方にはご自分で整容して頂けるように支援をしている。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたい物を伺いメニューに取り入れている。近所で食材を購入し、フロアーから見えるところで調理をしているので包丁の音やみそ汁の臭い等を感じられ、彩りにも気を使い、五感で食事を楽しめるように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスに配慮したメニュー作成を心掛け、時間ごとの水分摂取を促し、個々の水分量と食事量を記録している。申し送りで情報の共有を図り支援につないでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけを行い一人ひとりに合わせて仕上げ磨きや入歯の手入れを行っています。訪問歯科と密に確認を行いながら歯磨き等の支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし個々の排泄のパターンの把握に努めている。定期的に声掛けが必要な人にはトイレで排泄ができるように支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送り等で排便の確認を常に行っている水分をしっかりと摂って頂くために、飲料水も工夫し提供している。毎日のアクティビティや廊下歩行運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴にて対応し、本人のタイミングに合わせて入浴して頂いている。入浴を嫌がる方でも楽しく入浴されるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し、良質な睡眠を確保するよう努め、疲労の程度に応じて休息を促し、心身を休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬している薬を一括でファイルし、服薬のセット、服薬前、服薬時、服薬後(空薬包)で確認を行っている。血圧や血糖薬等特に留意する物について周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に出来る事を続けられるように支援を行い、役割を持ち感謝を伝えることにより、喜びを感じてもらっている。パズル等も行い達成感を感じられるように支援している。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ蔓延防止の為に家族との外出は控えていますが、馴染みの理美容や定期的に通っている病院には個々に対応して頂いている。集団でワクチン接種を病院で行った帰り等にドライブをし気分転換の努めている。又、四季を感じて頂くために個別で近所の散歩もしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族にも確認しながら、希望の物があれば職員が購入しお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はコードレスを使用しているので、居室での会話も可能にしています。電話や手紙のやり取りも支援しやすいように工夫しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節を取り入れた壁面装飾や花を飾っている。食事の時には心地よいBGMを流している。リビングと廊下は暖色灯、間接照明は白色灯にしている。まどからの景色も四季が感じられる庭があり落ち着けるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が2か所あり、共にテーブルとイスのセットの他にソファを設け自由な時間を過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はスペースに限りはあるが、馴染みの物を持ち込んだりしている(タンス等)。又、家族の写真や好みの置きものや飾りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々でできることをそれぞれにして頂き(床のモップがけ、洗濯干し、たたみ、食器洗い、片付け等)ご本人の体調に留意しながら行って頂いている。またトイレには表示し居室にはネームプレートを付けている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム冬桜

作成日：令和 3年 12月 7日

市町村受理日：令和 3年 12月 8日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	23	センター方式B-3シートに趣味や嗜好を具体的に記録し、変化に応じて追記や更新を行いケアや介護計画に更に活かす。	変化があった場合B-3シートに書き込みを行い、介護計画書の更新につながるように工夫する。	3ヶ月毎のモニタリング時や担当者会議の時に確認し記録、介護計画書の更新に反映する。	6ヶ月
2	35	地震時のケア別対応について職員間で話し合い、記録をマニュアル等に綴り定期的に確認する。	地震時のケア別対応について、職員間で話し合い、記録をマニュアル等に綴り定期的に確認する。	地震時の個別ケアに関して、カンファレンス時又は、モニタリングや担当者会議の時に確認し定期的に更新する。記録をマニュアルに綴り保管する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。